

令和元年度
学校自己評価報告書

令和2年5月31日
学校法人 中央医療学園
中央医療技術専門学校

令和元年度 学校自己評価について

1. 教育理念
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学習成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献

令和元年度 学校自己評価について

学校法人 中央医療学園 中央医療技術専門学校は、東京都葛飾区で診療放射線技師を養成する教育機関として、昭和 34 年に開校しました。実践的な職業教育により、最前線で活躍できる診療放射線技師の育成を行っております。

本校では、平成 30 年度より、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目を作成し、現状・課題の把握および改善策の検討・実施いたしました。

また、評価にあたっては、平成 14 年度から実施している学生授業評価アンケートの今年度の結果なども踏まえて行っています。今後は、この学校自己評価の結果を生かして、教育の質を向上してまいります。

1. 対象期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

2. 実施方法

学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会で評価を行った。

- ・委員会の構成は、委員長 学校長
委員 教務部長、法人事務局次長
総務課事務長、教務課長、学生課長

とした。

- ・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価段階を 4 段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）で委員ごとに評価し、平均を算出して各項目の評価値とした。
- ・評価は、年一回年度末に行うこととした。
- ・評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行った。

1. 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	3.5
2	特色ある職業教育が行なわれているか	3.7
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を持っているか	3.2
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.0

〈現状〉

- ・本校の目的は、医療の発展と国民の健康に寄与する診療放射線技師の養成にある。その為、教育理念として「現場で活躍できる職業人の育成」を掲げ、入学直後から病院見学を取り入れるなど、より実践的な教育を行っている。
- ・本校は、診療放射線技師を養成する単科の学校であり、開校以来60年の歴史をもち、日本で最も多くの診療放射線技師を育てている学校の一つである。また、開学以来、夜間の過程を設置し働きながら学べる環境を提供し続けている。
- ・医療界のニーズとして、診療放射線技師教育には4年制教育を求めている、そのニーズにこたえるため、将来的には本校も4年制（大学）を目指している。
- ・ホームページに「建学の精神として」理念の概要を明記し、本校を志望する受験生および保護者に知らしめている。

〈今後の方策〉

- ・校訓である「深い人類愛」、「強い探求心」を前面に掲げ、学力・技術力を身につけることはもちろん、将来医療技術者として必要となる人に対する思いやりや心遣いの重要性を、より一層力を入れて教育していく。

2. 学校運営

	評価項目	評価
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	3.5
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能しているか	3.2
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.7
5	情報のシステム化による業務の効率化が図られているか	2.8

〈現状〉

- ・年度ごとに、法人の目標、学校の目標を事業計画に明示し、その目標のもと運営を行っている。
- ・事業計画に基づき、年間スケジュールを作成、職員、学生に知らしめることによって学校行事に齟齬が生じないようにしている。また、毎月全体会議前に理事長も出席する役職者会議を開催し、学校運営に係わることについて確認、意思統一を図っている。役職者会議で決議されたことを月初めに行なわれる学校の職員・教員合同の全体会議で報告し、学校運営の意思統一を図る。
- ・規程集として学校法人寄付行為・就業規則・組織規程・給与規程・研修規程等がまとまっており、その規程集は教務室におかれていて何時でも誰でも閲覧できる。
- ・学生管理は、専用ソフトを使用し学生募集から卒業までを管理している。また、学内には職員共通のファイルサーバーを置き、情報共有に努めている。

〈今後の改善方策〉

- ・学内イントラネットを充実させ、職員間のファイルの共有や電子掲示板、作業効率化のための電子認証などの導入を検討する。
- ・ファイルサーバーの二次的なバックアップや在宅勤務になった際でもデータの閲覧が出来るよう、クラウドを使ったデータ管理を検討・推進する。

3. 教育活動

	評価項目	評価
1	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	3.7
2	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	3.2
3	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	3.7
4	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	3.5
5	授業評価の実施、評価体制が整っている	3.7
6	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	3.3
7	資格取得の指導体制はある	3.7

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所指定規則に基づきカリキュラムを作成し、学生の負担を考慮した時間割を組んでいる。
- ・成績の評価は学則に則って行われており、講義については期末試験、実習については実習項目ごとに提出されるレポートをもって評価されている。また、最終的な単位の認定、進級、卒業の判定は学年末に行われる専任教員による教務会議によって行われる。
- ・進級要件など、学則の運用に必要な細目は細則に定め、令和2年度より実施する予定である。
- ・授業内容・計画については、年度初めにシラバスを用いて、教科の目標、評価の基準などを学生に知らしめている。
- ・授業評価については、学期ごとに学生に授業アンケート（マークシート・自由筆記）を行い、教員にその内容をフィードバックしている。
- ・専任教員は研修規定に基づき、大学院等で勉強し、学生への指導教育に役立てている。また、年度末には教員のFDとして、大学から講師を招き指導に対する講演を実施している。
- ・最上級学年においては、診療放射線技師国家試験に向け、月に1回程度の模擬試験を実施し、学生の学力の把握に努めている。また、試験結果において指導の必要が認められる学生については、個別に課題を与え指導している。
- ・シラバスについては、ホームページに掲載している。

〈今後の改善方策〉

- ・2022年に予定されている診療放射線技師養成所指定規則改正に向け、臨床実習を含めたカリキュラムの見直しを行っている。

4. 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3.5
2	資格取得率の向上が図られているか	3.3
3	退学率の低減が図られているか	3.0
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.2

〈現状〉

- ・学生課の中に、就職担当を置き求人先や学生との対応を行っている。最上級生には、就職試験にむけ、年度初めに就職ガイダンスを行い、履歴書の書き方、面接の受け方などを指導している。また、学生の就職希望施設に就職の事前見学・研修や説明会の要望を連絡している。
- ・診療放射線技師国家試験の問題集・解説集を学校独自で作成し、最上級学生のみではなく昼間部2年生、夜間部3年生にも配布し、早期に国家試験に向けての意識を持つように指導している。
- ・1年時から、専門科目を取り入れることによって診療放射線技師を目指すモチベーションを維持してもらう。また1年春に、病院を見学し医療現場での業務内容を見てもらう事により、将来の自分をイメージさせ勉強に活かしてもらう。
- ・在学時から研究に興味をもっている学生は、グループ研究として教員の指導のもと実験・研究を行い、纏めたものを日本放射線技術学会などで発表している。新入生を日本放射線技術学会の春季大会に引率して、研究・発表の啓もうをしている。それについての費用は学校で負担している。
- ・卒業後、さらに上級の学校である大学や大学院を目指す学生のためには、編入学試験情報を掲示している。また、編入学試験過去問題の提供や解法の指導を行っている。特に外国語（英語）については苦手な学生も多いため夏季休業期間中に補講を行っている。
- ・卒業時に、任意ではあるが卒業後の住所・就職先などを報告してもらい卒業教育などの連絡に充てている。
- ・国家試験不合格者には、学校で実施している国家試験形式の実力試験・医用放射線試験に参加を推奨している。また、既卒者国試対策ワーキング・グループを設置し、国家試験直前講習会「かつしかセミナー」を実施している。
- ・中途退学や不登校の要因の1つに学生のメンタル面の弱さが考えられるので、専門のカウンセラーを置いてメンタルケアを行っている。

〈今後の改善方策〉

- ・就職については、同窓会との連携を図りながらミスマッチにならないよう学生一担任一就職担当一求人先の意思疎通をはかる。

- ・本校では、診療放射線技師国家資格取得が最も大きい目標の一つであるので、毎年、最上級の指導については、担任を中心に全教員でより良い方法を常に議論・検討していく。
- ・中途退学の原因は、下級生については原因の多くの部分が学力不足によるものと考えられ、入学試験合格から入学式までの入学前教育、入学時の学力の把握、入学直後の基礎教育を引き続き充実していく。

5. 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.7
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.8
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.5
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3.3
7	保護者と適切に連携しているか	3.7
8	卒業生への支援体制はあるか	3.5

(現状)

- ・就職時に有利となる放射線取扱主任者等の国家資格の受験講習会を行っている。その他の就職支援については4-1「就職率の向上が図られているか」に記述。
- ・学生の進路の一つに大学への編入があり、その進路支援のため、編入情報の提供、入学試験指導（過去問題の提供、英語補講）を行っている。
- ・学生相談室を設け学生の精神的な悩みや友人との問題などに対する専門家によるカウンセリングを行っている。今年度より学生相談室の広報として、年度始めにカウンセラーによる学生相談室の利用方法などについて学生に講義を行った。
- ・学生本人又保護者の経済的急変に備え、学校独自の奨学金を用意している。無利子の奨学金で、卒業後定額を返還するシステムである。
- ・東日本大地震等、大規模災害に対しては学費減免などの処置を行っている。現在も、学生の中に東日本大震災の被災者がおり、学費減免処置を行っている。
- ・学生の健康管理については、年一度の健康診断を行い、結果を学生に渡している。
- ・課外活動は運動部としてバレー部、テニス部、Build up & Shape up 同好会など、文化部としてピエゾ（超音波）部、軽音楽部などがあり、若干の部費と活動場所を提供している。
- ・中央医療祭（学園祭）を学生主体で行い、学生同士のコミュニケーションを図るとともに協力して一つのイベントを行う協調性や経済的、社会的適応能力を身に着ける事を目標として、運営の補助や費用の負担等を行っている。
- ・受動喫煙を考慮して校内は全て禁煙としている。また、ラウンジに電子レンジ、給湯器を配置して、学生の飲食を補助している
- ・保護者には半期ごとに成績送付、最上級生には模擬試験の成績送付や保護者会などを行っている。また、学生の勤惰を早く把握してもらうため、学生が一定数（原則同一授業3回）欠席したときは、学生の同意をとり保護者に連絡をしている。

- ・最上級生時に、保護者会を設け学生の現況を説明し、国家試験に向けて保護者に協力をお願いする。
- ・卒業年度の国家試験に不合格となった学生には、次年度の最上級生に実施される模擬試験の告知を行い。校内受験また自宅受験を許可している。また、国家試験直前には、学校において直前セミナーを開講し、卒業生に告知し受講を促している。卒業生の就職についても、学生課の就職係が担当し、在校生と同様に対応している。

〈今後の改善方策〉

- ・学生に就職情報をスムーズに提供出来るように、クラウド等の整備を行なう。
- ・学内において、学生が急病等になったときのために学校近くの病院のマップを作製するなどして、対応が遅れないようにする。
- ・個人のロッカーを整備し、学生の利便性を高める。

6. 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	3.7
2	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	3.2
3	防災に対する体制は整備されているか	3.5

〈現状〉

- ・校内学生実習用放射線器具・設備に関しては診療放射線技師養成所指定規則に従って準備されている。学生の学習用図書は図書室に一万冊以上の蔵書があり、パソコンによる検索が可能である。また、図書室は午前9時より午後9時まで開館しており自習用の机を配置し、夜間部の学生にも対処できるようにしている。
- ・臨床実習においても診療放射線技師養成所指定規則に従って行っており、事前に病院実習先の方による説明会を行っている。
- ・最上級生には国家試験に対する意識の向上を図るため、国家試験模試を年間通して行い、就職試験の準備として面接の練習なども行っている。最上級生の留年性に関しては夏休みにおける補習を行い、学力レベルの向上を図っている。
- ・防火に対する意識向上のため、地元消防署の協力のもと年一回の防災訓練を行っている。

〈今後の目標〉

- ・現在、放射線医療における医療機器は日進月歩の進化を遂げている。今後、最新の放射線医療に対応できるようにMRIなどの最新機器による校内実習の実現や、コンピュータ社会への対応が可能な人材育成を行っていく。
- ・学生の就学環境の改善を順次行っていきたい。
- ・臨床実習施設の増加を行い、学生の通学環境の緩和や実習環境の充実を図っていきたい。

7. 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5
3	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4.0
4	学納金は、妥当なものとなっているか	4.0

〈現状〉

- ・例年、学生募集要項（パンフレット）を作成し、日本全国の受験生に対し配布を行っている。また、国内各地において学校説明会を行い、当校の特色や卒業後の進路などの説明を行っている。
- ・校内においても、年に11回の学校説明会を行い、診療放射線技師国家試験の現状や就職に関する情報を説明している。見学会においては実際に当校の施設を見学してもらい当校の特色を理解してもらっている。当校の学生募集要項やホームページにおいて当校の国家試験合格率の結果報告や国家試験に対する学生受験対策の内容を掲載している。
- ・当校入学選抜考査は学内に入試委員会を設け、入試問題の作成・実施・採点を行い、入試問題に対し適切な試験問題が作成されているか検討を行っている。
- ・入学選抜考査は筆記試験（試験時間60分）と受験生個人面接試験（面接官2名）を行い、筆記試験成績上位者及び、面接合格者の中より選抜を行っている。最終的な合格者は教務会議において最終決定される。
- ・学納金は同分野の学納金水準を把握、勘案し適正に設定している。必要な費用はすべて募集要項に記載しており、入学後に別途徴収することのないよう配慮している。

〈今後の検討要綱〉

- ・国内全体の少子化に対する対策として、AO入試を含めた入試形態の検討。
- ・医療人としての資質を検討できる面接方式の検討など。
- ・入学選抜試験のより適正かつ公正・公平化の基準づくりを行っていく。

8. 財務

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	3.5
2	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	3.7
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	3.8
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.8

〈現状〉

- ・少子化傾向が続く中、学生数をどれだけ維持できるかが、収入の安定に繋がる。それとともに、収支のより綿密な分析が必要となる。令和元年度は、前年度と比較して在学生総数が減少したが、学生募集等に力を入れたことにより、令和2年度の入学志願者数が増加し、これにより令和2年度の入学者定員をほぼ満たすことができた。学校全体、中央医療技術専門学校において、事業活動収支計算書の当年度収支差額はプラスとなっており財務基盤は安定していると言える。
- ・予算、収支計画については、各部門から予算立案書を提出してもらい、事業計画に基づき且つ前年度実績と比較をしながら予算案を作成している。令和元年度は予算収支計画に基づき大きな乖離もなく適正に執行された。大きな乖離が生じた場合は適切に補正措置を行う。
- ・会計監査については、監事2名が事業説明を受けて、業務、財産の状況について監査を実施している。その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会へ報告している。私立学校法及び寄附行為に基づき、監事2名、税理士立ち合いのもと、監査を行った。
- ・財務情報に翌期の事業計画、予算書を加えた事業報告書を教務室においてあり、誰でも閲覧できるようにしてある。平成30年度よりホームページに財務情報を公開している。

〈今後の方策〉

- ・新型コロナウイルスのような予想もつかないことが起きた際に対応できるよう、財務基盤の安定は必要不可欠である。
学生数の維持については、学校全体で取り組んでいきたい。収支については、経費についてより綿密に精査していく。
- ・予算、収支計画については、各部門からの情報を正確に把握し、教育活動が計画通りに進行できるように努力していきたい。
- ・財務情報については、昨年同様にホームページ上に公開する予定である。

9. 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.2
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.5
4	自己評価結果を公開しているか	3.7

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所設置基準・指定規則を遵守して学校運営を行っている。
- ・学生の成績等の学内掲示や保護者への送付については、事前に同意を得て行っている。
また卒業後の住所、勤務先等の情報については、その取扱い毎に同意を得て取得している。
- ・自己評価委員会を設け評価している。評価後、委員会を開き項目ごとに検討し改善に努めている。
- ・平成30年度より自己評価結果をホームページで公開している。

〈今後の改善方策〉

- ・教職員・学生に対する法令等の遵守についてのルール作成等の検討が必要。
- ・学校として個人情報の取り扱いを再度確認し、意識の向上を図る。

10. 社会貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3.5
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.3

〈現状〉

- ・各種団体（病院等）への測定機器などの無償での貸し出しおよび、地域の技師会・研究会などの為に施設を提供している。
- ・東日本大震災で発生した福島原発事故後には、葛飾区より要請され、区の所有する簡易線量計 50 台の校正作業を無償で行った。校正作業は現在も行っている。
- ・今年度から学生主体のボランティア団体（地域清掃）を立ち上げ、活動を支援するとともに、費用の負担等を行い地域社会に貢献している。

〈今後の改善方策〉

- ・ボランティア活動を継続的に支援していく。
- ・学園祭等での公開講座を企画していく。

以上